



職員に出迎えられ初登庁する木山市長

木山耕三市長誕生



4月7日に庄原市長選挙が行われ、17日、木山耕三市長が誕生しました。

庄原市のトップとして市政運営を任された木山市長が4月26日、第4回臨時議会本会議で所信表明を行いました。

大に向けた支援策を検討していきま

2. 「暮らしの安心」

誰もが願う「健康な心と体」「安心としあわせ」を感じることでできる社会環境を構築するためには、その基盤となり、支えとなる、保健、医療、福祉、介護、教育の充実が強く求められます。

本市の高齢者比率は38.6%。2.5人に1人が高齢者になる社会の到来が予測されています。

しかし、高齢者の皆さんが生き生きと生活し、活動されることは、まちづくりの原動力になります。住み慣れた地域で、健康で安心して暮らせるよう、交流活動、介護予防などの充実に取り組めます。

また、次代を担う子どもを安心して産み、育てることのできる環境づくりも極めて重要です。休止状態が続いている市内での出産医療体制の再開に向け粘り強く取り組むほか、子育ての負担感を軽減し、安心して出産・子育てができる環境整備や支援策を検討します。

さらに、防災・減災対策、インフラの長寿寿命化対策を進め、市民の皆さまの安心安全を確保します。

3. 「にぎわいと活力」

本市には四季を通じて楽しめる豊富な自然資源や観光イベントがあります。また、松江自動車道の開通により、交通アクセスが格段に向上し、市内4カ所にインターチェンジを持つ全国的にもまれな優位性も持ち合わせています。これらの資源や環境を最大限に活用することで、より多くの交流人口を呼び込み、観光産業へと導かなければなりません。

特産品の開発や特産物の販売促進、地域の「食」や文化の継承と活用、さらには農家民泊への取り組みなど、観光と農林業・商工業を一体的に捉えた観光産業の振興策を推進していきます。さらに「にぎわいと活力」の創出には若者の力が必要であり、働く場の確保が不可欠です。地元企業の事業拡大支援、新規企業誘致にも積極的に取り組めます。

ふるさと庄原の未来を拓く

市 民の皆さんから寄せられた心温まると厚情に心から感謝申し上げます。市政運営を任された職責の重さに身の引き締まる思いです。初心を忘れず、驕ることなく、公平・着実な市政運営に努めていきます。

私たちのふるさとでは、「人口の減少」「少子高齢化の進行」「基幹産業の衰退」という中山間地域共通の課題が年々厳しさを増しています。

しかし、「活力あるふるさと」の実現「美しいふるさと」を未来へという思いを失ってはなりません。誰もが現状と課題を再認識し、市民、議会、行政の三者が一丸となって知恵を出し、汗をかき、創意と工夫を結集することで、必ず道は拓かれるものと確信しています。

めざすは「いちばんづくり」

活 力のある庄原市を築くために、「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」を柱とする「庄原いちばんづくり」を約束します。

この「いちばんづくり」の「いちばん」とは、決して数値や量、順位などを基準としたものではなく、「しあわせ」や「安心」「達成感」や「満足感」といった心の

「木質バイオマス事業」「超高速情報通信網整備事業」などへの対応

現 在中断している「木質バイオマス利活用プラント事業」の継承の是非については、慎重な判断が必要なため、客観的かつ中立的な見地で検証していただく「検討委員会」を早期に設置し、その方向性を導き出していきます。

また、「超高速情報通信網」の整備は市民の声はもちろん、若者定住、企業誘致を進める上で必要だと考えています。同様に、「防災行政無線」についても、災害時の緊急情報や平常時の行政情報の伝達手段として不可欠だと思えますので、これまでの協議経過や整備計画を検証し、最適な事業形態を総合的に判断したいと考えています。

庄原の発展に全力を尽くす

新 たな施策・事業を実施するためには、もちろん財源が必要です。

本市の財政指標は県内でも下位に位置しており、合併特例措置の終了による普通交付税の段階的な縮減が危惧されることから、効率的かつ健全な行政運営に一層努力が必要です。こうした状況も踏まえ、行政経営改革に取り組みますが、単に削減・抑制ありきではなく、市民の声にこたえる視点を持ち検討したいと考えています。

「いちばん」を実感できること。やっばり、庄原が「いちばんええよのお」と思える「まちづくり」を進めることにあります。

●「いちばんづくり」の3つの柱●

1. 「地域産業」

本市の地域産業・基幹産業は「農業」です。しかし、「農林業」の衰退が顕著であることも否定できません。

ただ、厳しい環境でも、前向きな挑戦があります。喜びへとつながる事例もあれば、米の食味コンテストで、本市から出品されたコメが2年連続で高い評価を受け、最優秀賞を獲得されたことです。

このように、本市には経験に基づく知識と技術、誇りと熱意を持った農業者が数多くおられます。市内で生産されている多種多様な農畜産物の付加価値を高め、消費者から信頼される「庄原ブランド化」の推進や、生産から加工、流通販売を一体化する「6次産業化」の育成など、新たな視点と検証を加えた農業支援策に取り組めます。

また、地域の約84%を占める森林の資源活用、林業再生に向けた取り組みも重要です。

「ひろしまの森づくり事業」をはじめとする既存施策の有効活用と併せ、豊富な森林資源の活用、地域材の消費拡

市民の皆さんが元気になり、やすらぎを感じ、夢と誇りをもてる「庄原いちばん」を念頭に置き、市民生活に真に必要な事業、地域経済の成長につながる活力を生み出す事業など、優先順位を的確に見極める中で、まちづくり事業の着実な実施に努めます。

3期12年間の広島県議会議員として培った経験と、庄原で生まれ育ち、庄原を愛し、常に庄原を見つめてきた市民感覚で、ふるさとへの持続的な発展に全力を尽くします。



職員に訓示する木山市長

